

天敵と物理的防除を利用した施設ピーマンの害虫防除法

施設ピーマンの主要害虫であるアブラムシ類やアザミウマ類の防除について、紫外線除去フィルムと天敵を利用して省力的な防除が可能である。

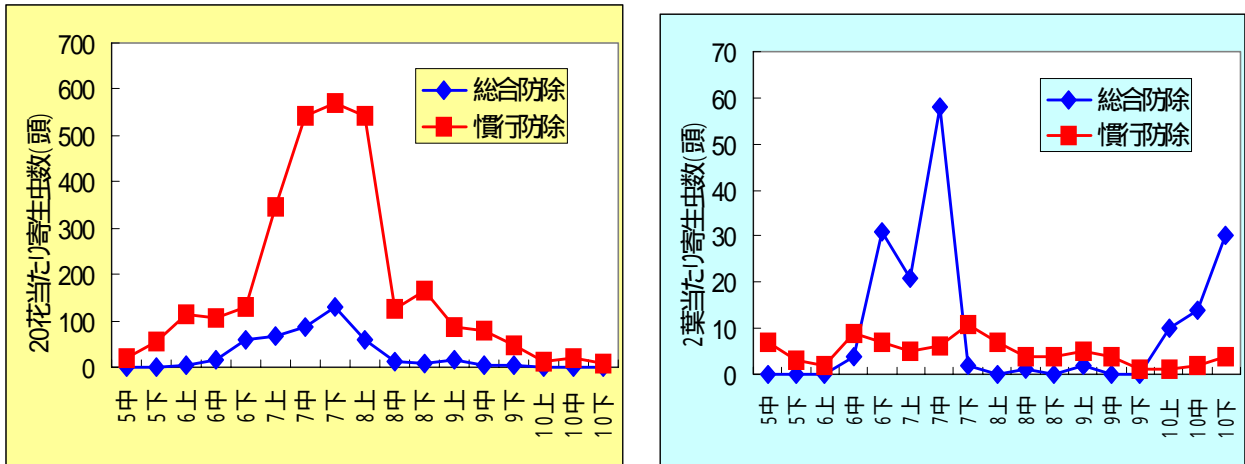


図1 ピーマンのアザミウマ類（左）およびアブラムシ類（右）の寄生密度推移

総合防除区は、紫外線除去農ポリ被覆ハウスでの栽培で、下記の通り各種天敵を放飼し、慣行防除区は通常農ポリ被覆栽培で、下記の通り薬剤を散布した。

総合防除区

6/2：タイリクヒメハナカメムシ(2頭/株) + ナミテントウ(1.6頭/株) 7/9, 7/16：ククメリスカブリダニ(200頭/株)
7/25：コレマンアブラバチ(4.2頭/株) 8/26：BT水和剤

慣行防除区

5/8：イミダクロプリド粒剤 6/10：ピメトロジン水和剤 6/25：アセタミプリド水溶剤 7/18：クロルフェナピル水和剤
8/7：スピノシン水和剤 8/20：ピメトロジン水和剤 9/7：イミダクロプリド水和剤

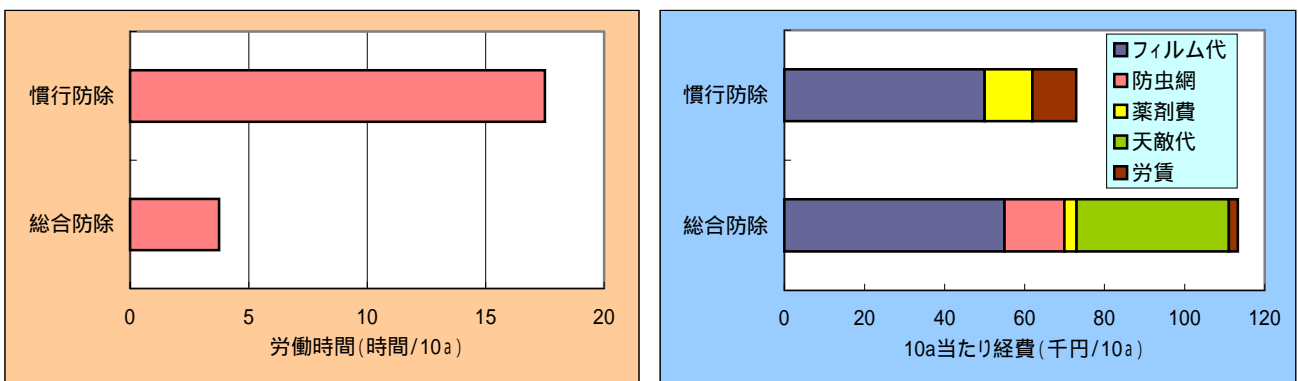


図2 総合防除と慣行防除の労力と経費の違い

総合防除区では、薬剤散布回数が削減できるので防除作業時間は大幅に縮小できる（左図）。ただし、経費的には天敵の購入費が大きな割合を占める（右図）。